

ワンツークラス 演劇ワークショップ#13
「リーディングで学ぶ対話術」
—舞台俳優のための演技講座—

講師/古城十忍

インストラクター/奥村洋治・関谷美香子
アシスタント・記録/日暮一成・増田和・原田佳世子・小山広寿・安田惣一・森山景

日時/2015年10月25日(日) 13時30分~21時30分

会場/芸能花伝舎 B-3

参加者/13名(女性8名・男性5名)

アシスタント・記録・レポート/山下

夕佳

天高く馬肥ゆる秋！好天に恵まれた日曜日。しかし西新宿のビル群を吹き抜ける風はハンパない強さ。「秋一番？冬一番？なんだこれ〜」よたよたと芸能花伝舎に。参加者の方たちも「すごい風ですね」と、挨拶もそこそこに強風のお話。後で分かったことですが、この日東京は「木枯らし一号」だったそうです。木枯らし一号ね、そうね、そういう名前だわね。(笑)

本日は一日限りのリーディング講座でございます。初のリーディング、どうなりますか……楽しみ楽しみ♪さあ、始めましょう！

■ ウォーミングアップ

【ストレッチ】 前回（#12）のレポートでも説明いたしましたが、「相手を背中に乗せてゆるするやつ」です。二人一組。なる

べく体型の似ている者同士が望ましい。立って背中合わせになり、乗せる人が両足を大きく開いて背中をくっつけたまま、相手のお尻が自分の腰の高さに来るまで、膝を曲げて体を下にずらしていく。その状態で、後ろに手を回して乗る人の膝の上を持つ。乗せる人はゆっくりと身体を前に倒す。乗る人は怖がらずに体重を預ける。背中をしっかりと密着させたまま倒れ、乗せている人は、背中の中の相手が「落ちない」と思ったら手を放して自分の膝に置き、膝の屈伸を使ってゆっくり大きく揺する。





さてお次は、「体をぐしゃぐしゃに動かすやつ」。先ほどからタイトルがぞんざいでスママセン……うまい名前が浮かばなくて。両足を肩幅に開いてしっかりと立ちます。両手は自然に体側へ。まず、手首から先だけを動かす。上下・左右・前後・斜め・回すなど。次に肘から先だけを同じように動かす。シンメトリーにならないように、右手と左手を別々にあらゆる方向へ動かす。肩は固定したまま。足も動かさない。次に肩を解除。可動域が広がります。胸と腰を解除。上半身がずいぶん自由に動かせるようになりました。膝を解除。まだ足の裏は床から離れてはいけない。しかし膝が使えるとほとんど不自由なく動けます。足首解除。足を上げてもいいです。最後に首を解除して、全身であらゆる方向に動かす。ぐしゃぐしゃ・グニョグニョ。



全身動かし続けるのってかなり大変！最初は大笑いしながらグニョグニョ動いていた皆さんも、次第に息が上がってきました……が、うちの座長はここからが大好きなんですよ。「もっと自由に！」「左右が同じになってますよ！」「パターンを変えてえ！」参加者の皆さん、ハアハアいってます。目が回ってきた人もいるみたい……古城さん、そろそろ……本日はリーディングですし……。「はい！では今度はさっきと逆の順番で固定していくよ、首を止めて～」。あらら、同じ時間を使って戻っていくのね……皆さん、気を確かに！しっかり踏ん張って頑張っ



上がりまくった息を無理やりおさめて直立。まっすぐ前を向いたまま、両手を上にあげる。中心軸を意識して。右手は右耳の横、左手は左耳の横を通して天井を突き刺すくらいに中指の先まで全てがまっすぐに。



←そのまま8カウントキープ。ゆっくり両手を体側に戻して大きく深呼吸。おしまい。わはは！しょっぱなからすっごいハードだ。頑張りましょう。

↓→さて……心静かに。今度は二人一組になって、**中心軸を引き上げ**ます。立って引き上げるやり方は過去にもご紹介しましたが、今回は**座って引き上げる方法**です。



写真のように、一人が正座をします。もう一人は、座っている人の後ろに立ち、自分の足で相手の体を包み込むようにして、手を肩甲骨に添えます。座っている人は、立っている人の首に両手を回してしっかり組みます。体勢ができたなら、立っている人は座っている人の体を真上に引き上げるように膝を少しずつ伸ばしていく。軽く揺する。座ってる人は体の力を抜いて、ぶら下がっているだけ。



←次に、座っている人に膝を開いてもらって、立っている人はその両膝の間に左足を入れて、右側にねじる。座っている人の体が後ろや前に傾かないように気を付けて、**真上に引き上げ**ながらねじる。足を変えてねじる方向も変える。一通り終わったら、座っている人と立っている人をチェンジ。この方法も、とっても良く中心軸が伸びます。お試しあれ☆

呼吸・発声

【歩く】 中心軸を引き上げた状態で姿勢よく歩く。かかとをつくたび（重心が移動するたび）に息を吐く。手の振りも意識する。前に出す手と後ろに引く手は同じくらいに。手の振りは、前は意識しやすいが、後ろにちゃんと引かないと、歩く速度を上げた時に、手と足のリズムが狂います。古城氏の手拍子はどんどん早くなる。怒号が飛ぶ。「なんか変ですよ！顔が前に出てきてる！手と足がずれてる！腰が落ちてる！」。ただ姿勢よく歩くだけだったのに、早い手拍子に合わせていくうちに皆さんの歩行はいつしかどンドンヘナチョコに。足の力で移動しようとするのとてつもないエネルギーが必要です。腰を動かす、腰で体を運ぼうとすれば少ないエネルギーで前に進みます。手と足も同時に出ます→「なんば」になる可能性も減ります。（笑）



- ① 前後に開く
- ② そろえる
- ③ 逆の前後
- ④ そろえる
- ⑤ 左右をクロス
- ⑥ 逆の左右クロス
- ⑦ 左右に開く
- ⑧ そろえる

【両足開閉ジャンプ】 前回のワークショップでわたくしが「謎のジャンプ」と、これまた適当に命名してしまったジャンプです。どうしましょう？今後も続く予感がするので、軽く、「両足開閉ジャンプ」とでも言っておきますか。手拍子に合わせて一定のリズムで跳びます。順番は左表の通り。これも、着地のたびに息を吐きます。中心軸がブレないように。姿勢よく、目線はまっすぐ。目線がブレると体もブレます。

次に二人組。向かい合わせに立ち、軽く肘を曲げて、右の手のひらを上に、左の手のひらを下にして、お互いの手を片方ずつ「乗っける・乗つけられてる」という状態にする。この状態で、ジャンプしながら「あえいうえおあお…」と発声。一番意識するのは中心軸。相手の軸が傾くと、軽く乗つけた（乗つけられた）手のひらにすぐ伝わってくるのでわかる。「右手が重い」とか、「左手が引っ張られる」とかね。



次に、お互い同時に発声していた「あえいうえおあお……」を、一音交代に。一音ずつ交互に大きな声で言うわけです。足は前後に開いたりクロスしたり、やること満載ですよ。次に、右の表のように足の動きを変えます。さっきまでは「あえいうえおあお」の8音とジャンプも8個でしたが、ジャンプが7個になります。すごい複雑です。で、これを一音交代で。うちの関谷美香子女史でさえ、「できない～！これは難しい」と言っておったよ。受講生の皆さんがものすごい形相でチャレンジしている姿は……美しかったっす(^_^)

- ① 前後に開く
- ② 逆の前後
- ③ そろえる
- ④ 左右に開く
- ⑤ 左右をクロス
- ⑥ 逆の左右クロス
- ⑦ そろえる

【一行交代】 全員で円になって胡坐をかきます。正座・長座でもいいです。一人が「あえい

うえおあお」と言ったら、全員で「あえいうえおあお」と言う。一行交代滑舌発声。一音一音をはっきり大きく。「あ・か・さ・た・な・は・ま・や・ら・わ・が・ざ・だ・ば・ぱ・か°行」まで。

【スローモーションをしながら発声】 次に、一音一音の音を伸ばして発声。息を先ほどより長く使う。「あーえーいー……」という具合。一音を1秒くらいかな。で、その発声をしながら「あ行」から「は行」までの6行使ってスローモーションでゆっくり立つ。6行目「は行のほ」の言い終わりと、立ちきって両手が体側に収まるのが同時になるように。一音1秒だとしても6行だと48秒。1分弱かけて立つ動作をやるので、かなりなスローモーションになるはず。スローモーションの掟は、絶えず全身が動いていること。立ち上がる時につらい姿勢だからといって、「手は床について体を支えたまま動かない」とか、「首が固定されたまま止まっている」はアウト。立ち上がる際にも、足だけじゃなく手の指・背中・肘なども、僅かでもいいから全身に神経を張ってゆ〜っくりと動かし続けること！あ、体にばかり注意が行くと発声が疎かになるので、腹式をしっかり使って大きな声で！



【ジョギング3段階】

① ↓ 「あ行」

② ↓ 「か行」

③ ↓ 「さ行」

- ① 両手をウエストの横位置に置いて軽く握る。前傾姿勢でジョギング。足は、前に出すのではなく自分のお尻を踵で蹴り続ける感じ。片足がつくたびに発声。「あ行」。
- ② 肘を軽く曲げ脇は締めたまま手のひらを正面に向ける。ジャンプしながら左右交互に足を前に放り出す。一旦後ろに振りかぶってから、甲でサッカーボールを蹴る要領で。振りかぶる時に息を吸い、蹴ると同時に声を出す。膝を伸ばす時間分だけ音は伸びる。「か行」。
- ③ 片足だけで立ってポーズを決める。一瞬で全身をロックする。ポーズは自由だが、しっかり止まることが重要。全身がピタリと止まったら短く早く大きく「さ行」。

①から③を、鼻濁音まで繰り返す。リズムとしては……「あ、え、い、う、え、お、あ、お、○（←息を吸う一拍）かーけーきーくーけーこーかーこー◆（←片足を踏んで全身が静止するまでの一瞬の間）せしすせそさそ」というような感じになります。ちょっとわかりにくいかな？見ればすぐですよ！是非ご参加を！

『動員挿話』(二幕)

作・岸田國士

時 明治三十七年の夏

所 東京。宇治少佐の居間、夕刻。

——前略——

(長い沈黙。馬丁友吉、恐る恐る現る)

友吉 何か御用で……。

少佐 もつとこつちへはひれ……。寝藁は新しいのと取り更へたね。

友吉 はあ。

少佐 それではと、早速だが、お前の決心を聞きたいんだ。

友吉 ……。

少佐 どうだ、おれと一緒に戦地へ行くか。

友吉 (黙ってうつむく)

少佐 副馬の方はまあいゝとして、正馬の方は、あの通り手のかゝる馬で、お前にはやつと慣れたところでもあるし、お前がついて行つてくれれば、おれは大変助かる。将校の馬を預かつてみれば、日頃こんな時の覚悟も、まあしてあるだらうとは思ふが、念のために聞いて見るんだ。

友吉 ……。

少佐 それとも、戦地に行くのがこはいか。

友吉 いゝえ、こはくはありません。

少佐 そんなら、どうだ。いくか。

友吉 (また、顔を伏せる)

少佐 兵隊に取られたと思へばなんでもなからう。そのからだで、その若さで、意気地のないことは云ふまいな。

友吉 ……。

少佐 人間はどうせ一度は死ぬんだ。畳の上で死んでも一生は一生、汽車に轢かれて死んでも一生は一生だ。国家の為に、潔く命を投げ出せば、それだけ死に花を咲かせることになるんだぞ。男子の本懐ぢやないか。

友吉 (黙って頭をさげる)

少佐 給料は倍にするし、お上からも、無論手当は出る。その上、無事に帰れば、従軍徽章も頂戴できるわけだ。

夫人 それに戦争と云つても普通の兵隊さん見たいに、そんなに危ないところへ出ないでも済むんでせう。

少佐 それもさうだ。なに命は大丈夫だよ。(間) こつちへ残して行くものゝ世話は勿論引き受ける。お前に万一のことがあつても、心配はいらん。

友吉 (黙って頭をさげる)

ない。友吉には同じ屋敷で働く数代という妻がいる。夫人に伴われて居間に入ってくる数代。

数代、丁寧に会釈する。

少佐 そんなに改まらなくつてもいい。そこで、あらまし話は聞いてみただらうが、今度、戦争がはじまって、師団にも動員が下つたわけなんだが、知つての通り、将校はみんな馬丁を一人連れて行くことになってゐる。おれは、友吉を連れて行かうと思ふが、お前に異存はないか。

数代 (黙つて友吉の顔を見る)

友吉 (その視線を避けて、顔を伏せる)

少佐 今、友吉にも話したところだが、友吉は、お前さへ承知すれば、行つてもいいと云ふのだ。これが、われわれ兵隊なら、家内に相談も糞もない。それだけまあ、馬丁などは自由なわけだが、日本の男と生れて、この千載一遇の好機会に少しでも国家の為に働きたいと云ふ望みは、これは、誰しも一様なわけだ。

数代 さう致しますと、行つても行かなくても、それは本人の勝手なんで御座いますか。

少佐 まあ、さうだ。

数代 それなら、宿は、お伴を致し兼ねます。

少佐 そりや、どうして……。

数代 たゞ、それだけで御座います。

少佐 たゞ、それだけか。

数代 たゞそれだけで御座います。

少佐 もう考へ直してみる余地はないか。

数代 さきほどから、よく考へてみました、実は陸軍の馬丁が戦争に行かなければならないものか、どうか、わたくしどもにはよくわからなかつたので御座います。行かなければならぬのなら、またそれだけの覚悟も御座います。ですけれど、只今のお話では、行かなくてもすむといふことで御座いますから、わたくしは行って貰ひたくは御座いません。

少佐 お前が行って貰ひたくないと思つても、亭主が行くと云へば仕方があるまい。

数代 そんな筈は御座いません。行くと申す筈が御座いません。二人の間に、話はもうちやんとついてゐるので御座います。

友吉 しかし、なあ、数代、旦那もあゝおつしやるんだしさ……。いろいろお世話になつた義理から云つても、お伴をしないわけにや行くまいと思ふんだ。

少佐の説得に頑として首を縦に振らず、夫人の意見にも「そばを離れたくない」という一点から反論し、まったく譲らない数代。勢い暇を出された二人は、ならば東京を離れて二人で暮らしていこうと固い約束を交わす。が、二幕では友吉が、仲間が一人残らず主人の伴をすることを知り、自分も戦地に同行することを決心、数代に告白する。

ラストシーンは、友吉の「うそだよ、うそだよ、おれは行かないよ。行かないつてばさ。え、い、うそだって云うのに、これでもわからんのか…… (殆ど狂乱の体にて、悶え呼ぶ)」というセリフで終わっている。数代は井戸に身を投げたのだ。



リーディング

岸田國士の『動員挿話』をテキストに、いよいよリーディングの始まりだ〜い！ホワイトボード登場。何かと体育会系的な私どもといたしましては、学校の授業みたいな導入に、劇団員の方がやたらドギマギ。

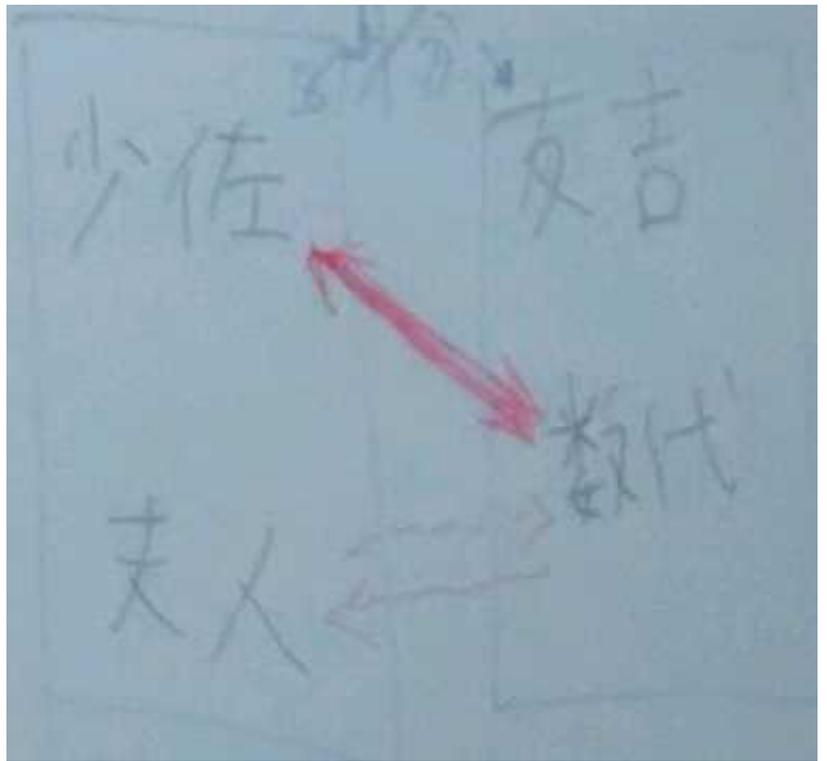
「リーディングっていうのは、脚本を持ってやるんですけど、普通のお芝居と同じで、**戯曲をどう解釈するの**かっていうのがすごく重要です。今日はここにいるメンバーでやっていくわけですけど、この戯曲をどう理解していくかということ、ある程度の**共通認識**をもってやってもらいたいと思っています」

ということで、まずはどういう感想を持ったか、何を描いた話だと思ったかということを知る。「女の本心を書いている」「怖い女のはなし」などの感想(笑)。

「数代と結婚したいか？」との質問には大半の男性諸君が「NO」というお返事。「数代の気持ちわかるか？」という質問には「わかるけど、ああいう手段は取れないし、取らない」との意見に女子の大半が頷く。

次に、主な4人の人物たちの**関係性**を探る。「それぞれの**対立関係**にある人物は誰？」との質問。「少佐と友吉」「夫人と数代」「少佐と数代」「友吉と数代」などなど。この物語の中ではさまざまな感情の対立が起っている。「グループとしての対立はありますか？」には「少佐夫婦と友吉夫婦」の答え。「それは何ですか？」「ステータス？」「そうです、この脚本には**身分の対立**が描かれています。お互いに理解できない。様々な感情の対立の背景には**時代性**が大きく影響しているということを踏まえて、さて、俳優として演じるにあたってやるべきことは？奥村君」

急にフラれた奥村君はそれでもシッカリハッキリと「少佐と友吉をどうやったらうまくできるかなって考えてます！」とやる気満々の笑顔満面。古城氏は冷徹にも「質問に答えて下さい」とピシヤリ。「俳優としてやらなければいけないことは、セリフに書かれていないことをどうやって演じていくかです。セリフで対立しているものなんかはどうでもいいんです。だって書かれているんだから。岸田國士の言葉を伝えてくれさえすれば伝わります。はっきりと描かれていない部分を出せますか？ってことです。この作品を大きく覆っているのは時代です。平成に置き換えても何の説得力もないですよ。現代にこんな女は死ぬほどもいます。（場内爆笑）むしろ多いです！（さらに爆笑）でも、（ホワイトボードを指して）こういう時代だから、この人間関係が成り立つ。そこを共通認識として持っておかなくてはこの戯曲はできません。その上で、書かれていない関係をどう表現していくのか、明確にセリフになっている部分でも、どう出していくのかというのを考える。それが俳優の仕事になるわけです。あとは、この戯曲に書かれているシーンに至るまでの過去をどう考えていくか。つまりその人物のバックボーンですね。ここに書かれていることだけで勝負しようとしたって、そりゃ無理な話です。ここに至るまでをどう理解するのがものすごく大事」



なるへそ。……古城さんの授業って面白いなあ。久々の講義に感心しきりのわたくしでした。



本日のリーディングの方向性は、明確な対立関係は強力に、潜んでいる対立関係も極力大きく表現していきたいとの古城演出の方針をみんなを確認して……とにかくトライ！！



4人のキャストを交互に替えてどんどん読みます。少佐と夫人の会話では、少佐の、夫人への声のかけ方にダメが出る。「数代への不満を吐いてるのに、いちいち『～だよな?』『お前もそう思うだろ?』って、夫人の同意をほしがっている感じがする。もっと自分本位でいい。頭で友吉のことを考えながら口では勝手に不満を吐いて、お前は聞いていればいらいじゃないと現代人の会話に聞こえる」。

夫人の友吉への受け答えもしかり、「身分下のものに寄り添いすぎ」。

友吉と少佐の会話では、「体が違う。二人とも今、非常にリラックスした体で読んでるけど、背筋がもっと伸びてるだろうとか、主人の前では余計な動きは出来なからうとか、時代背景を想像しなきゃ。体が声に与える影響は大きいですよ」との指摘。なるへそなるへそ……。

◆上記(4ページ前)抜粋テキストの後(1枚目と2枚目の間)には少佐と友吉のこんなやり取りが続いている↓

少佐 お前は、少し、女房の云ふことを聞きすぎやしやせんか。
友吉 それが、さうしませんとあとが五月蠅いもんですから……。
少佐 どう五月蠅いんだ。
友吉 嬢は何時も、あたしのからだはあんたのもの、そのかほりあんたのからだはあたしのものつて、かう申しますんです。
少佐 さうすると、主人はどうなる?
友吉 へ、そりや、もう、わたくしは、なんですが、まあ、二人つきの時だと、さういふわけなんで……。夜、こちらからお暇が出来ますと、それきり、煙草を買ひに行くことも出来ません。
少佐 果報者だよ、お前は……。 (間) しつかりしろ、しつかり……。なんだ、その面は……。

「この時代に、友吉夫婦はこんな会話をしているわけです。少佐の夫婦にこんな会話ができますか?しかも友吉は、言い訳にせよ、さほど嫌なふうでもなく、少佐に報告している。その言葉をどんな感情で聞いているんですかね。なんか、言葉通りに読んでる人がたくさんいるけど、それだけ?そんな単純ですかね?」古城演出家から、お叱りのお言葉です。

な一なるへそへそ。今日のリーディングは、書いてないところを大きく打ち出すんだっただ。もっといろいろ想像しなきゃダメじゃ!

数代の登場で表現すべき関係性は複雑になっていく。



「少佐はそんなに真っ向から喧嘩を買わない！圧倒的に立場は上なんです」「数代の語気はもっと大きくきっぱりと！自分の意思を友吉に聞かせるという意図があるんですよ！」「体が楽すぎますよ！そんなにグニャグニャしてたら腹は据わらないでしょう。それ、平成の体！」

もう、少佐以外は全員正座になってしまいました。リーディングだかなんだかわからん(笑)。いや、そういうことでしょう。やはり声と体は密接に連動しているし、目線の高低とか背筋の伸び方とか、椅子に座っているのと正座をしているのでは、相手との対峙の仕方が変わってくるもんね。

—— 休憩 ——



休憩だって言うてるのにみんなキャストイングに夢中で休んでくれません。

チームに分かれて配役を決めて、みんなの前で発表をします。稽古時間はわずかだものね、今日やったことを総動員してレッツトライ！なのだ。

少佐と夫人は腹を据えて。この時代の「ご主人様」とはどういう居住まいなのか、どういった言葉の発し方なのか、感情をどう表すのか。

「ご主人様」に仕える友吉夫婦も同じこと。主人を前にはっきり自己主張する数代はどの程度の覚悟を持っているのか。板挟みとなった友吉の心情や居住まいはどんな感じなのか。



勘でもいいから最初は大きな表現を目指さないと相手にも自分にも、その表現の仕方が合ってるのか、間違っているのかわからない。大きく大きく。……とは言っても、山賊みたいな「少佐」と、魔女みたいな「夫人」と、吠え続ける小型犬みたいな「数代」の板挟みになってる、ほとんどのび太な「友吉」という、謎の『動員挿話』は笑えた。多かれ少なかれ、似たような道程をどのチームも辿っており、そんな時、「芝居って恥知らずしかできないねえ」って思うわ。芝居の途中経過って、あとから思い返すと笑えるよね。



◆各チームの稽古も佳境でございます。

さてさて、何はともあれ発表(^◇^)です。

稽古に入る前に古城氏は、「キーは友吉夫婦になるわけだけど、数代という人物は、セリフで限定されているところが結構あるので、キャラクターも、ある程度の水準のものにはなっていくと思うけど、難しいのは友吉ですね。この役は、表立ってセリフとしては書かれていない部分が多いから、言葉の裏の、友吉の気持ちの揺れをどうやって出していくのか、どの部分で揺れるのかという“揺れ幅”が大きく役者に委ねられている。演じる役者によってキャラクターはずいぶん違ってくるでしょうね」と言っておった。本日のテーマの一つでもある、「セリフ以外の部分をどう表現する



のか」つつーところが一番多いのが友吉ってなワケですナ。ふむふむ。のび太もセリフ以外でずいぶん揺れているもんな……いや、のび太は結構ひとり言で気持ちを吐露し



てるか。いやいやのび太について考える時間じゃないから。

←トップバッター。セリフの速度にダメ出しあり。現代的な早いセリフ回しは、身分上の重みを出すのに適していない。時代を表現するにはセリフのスピードコントロールも大事だと。加えて、目下の者のリアクションも共演者の立場を明確にする大切な後ろ盾。



←ワタクシが担当したチームです。「熱いものの一部が表出して欲しいんだけど、今出している感情が精いっぱい」「全部のセリフが用意されている。

俳優本人の地が感じられない」「4人の声のバランスが悪い」などなど。ダメの嵐。ちえ。私は知ってるぞ！皆さん、練習の甲斐は十分ありましたよ！！



←まさかのキャスティング。奥村大先生の友吉（絶対に立候補だよ！）に対して、遥かに若い妻・夫人・少佐。……コント??ほら、古城氏のダメ出しはキツイよ。「奥村さんにこの役は無理です。友吉という人はとても純なんです、あなたじゃ忠義と愛の板挟みにはなれない」だって。(笑)奥村君、反省してください。

←キャラクターの作り方へのダメ出しが多かった。数代の強さ、友吉の弱さが前面に出すぎているので、もっとそれぞれの違う側面を出さないと戯



曲が求めている人物像には弱すぎる。本来の性格に時代を加えるとどういう表現になるのか？を考えていくべきだとのこと。

最後は劇団の若手メンバーチームの発表でしたが、「空気感がさっぱりわからない。キャストの悪さもあるけど、そこに挑戦するのならそれなりの空気をしっかり作らないとオママゴトにしか見えない」との辛辣な意見。ああ！超手厳しいダメ出しですな。といいながら私も言いたい放題だったけどね、愛情愛情♥♥

一日限りでしたが、戯曲の解釈なども盛り込んだ今回のリーディングワークショップ。なかなか濃密な時間だったのでは？？と思います。いかがでしたでしょうか。

「今日、この戯曲のリーディングをやるにあたって、いろいろと解釈について言いました。ここまで読み込んでいくのは大変だとは思いますが、どんな解釈をするにせよ、やらなきゃダメです。で、そこを踏まえたくて相手のセリフを聞いていく。リーディングのセリフは、喋るほうにかなりのウエイトがいつてしまうんですけど、どこまで聞けるか？どう感じながら聞かか？がとっても大切です。今日やったことを、それぞれの現場に持ち帰って役立てていただけたらと思います」

古城演出家のシメの言葉にて、本日のワークショップはお開きです☆

みなさま、お疲れ様でした。ご参加、本当にありがとうございました！！

編集後記

今日は一日だけということもあって、なんと 21 : 30 過ぎまでやっちゃいました。お忙しいところ、お付き合いいただきまして、本当にありがとうございました！さあ、ギューッと詰まった時間を、キンキンのビールでパパーッと開放しちゃってください。お疲れ様でした♪

夕佳

